

会 議 録

1 会議名

第5回名立区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- 自主的審議事項の検討について
- 平成29年度視察研修会の検討について

(2) 報告事項（公開）

- 行政報告

(3) その他の事項（公開）

- 平成29年度第6回地域協議会の開催予定

3 開催日時

平成29年8月25日（金）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

名立区総合事務所 第2会議室

5 傍聴人の数

0名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：安藤安年、奥泉 稔、木村和子、草間照光、佐藤道子、塚田 正、徳田幸一、二宮香里、原田秀樹、三浦元二
- ・ 事 務 局：牛木所長、三浦次長（総務・地域振興グループ長兼務）、松永市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、竹内班長、佐藤主任

8 発言の内容

【竹内班長】

- ・ 会議の開会を宣言。
- ・ 上越市の地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【塚田会長】

- ・挨拶
- ・所長に挨拶を求める。

【牛木所長】

- ・挨拶

【塚田会長】

- ・事務局に資料の説明と会議録の確認者の発表を求める。

【竹内班長】

- ・資料の説明
- ・会議録の確認：原田委員、三浦委員

【塚田会長】

- ・協議事項2－(1)「自主的審議事項について」、ろばた館の存続に向けてと婚活の件についてそれぞれ三浦委員と二宮委員から提案理由や目的等について説明してもらい、その後に議論したい。それ以外の案件についても話題があったら出してもらいたい。

【三浦委員】

- ・本案件については提案をしている段階であり、自主的審議事項として継続的に検討していくかどうか委員で協議していただきたい。
- ・ろばた館については整備後22年経過しており、この間、区民の憩いの場、交流の場、伝統・文化の育成の場などの多目的な利用が図られてきている。
- ・こうした温浴施設は市町村合併前の13町村で数多く設置され、合併後も引き続き運営されてきた。
- ・近年、大島区のあさひ荘や浦川原区のゆあみのように、利用状況が悪化し、市から基本的な方針が示されて、地域協議会を含め、地域において将来的な経営のあり方等に関する検討が行われたものの、閉館されるケースが出てきている。
- ・ろばた館について、これまでに市において利用状況や経営状況を踏まえ、さらなる利活用策の検討が行われてきており、今後も継続的・安定的な経営を望むところであるが、地域としてろばた館の存続を強く望むとすれば、市からろばた館の方向性についてなんらかの意向が示される前から地域主体の実行性のある取り組みについて検討しなければならない時期にきているものと思われる。

- ・そこで、このことについて地域協議会における自主的審議事項と位置づけ、住民アンケートや地区懇談会等を通じ、名立区全域にわたり「ろばた館の存続」という共通認識を醸成するとともに、地域として取り組むべきことについて検討していくことが必要と思われる。
- ・この事案が自主的審議事項として適切・妥当かについて決定するために、その前段として資料等を参考に地域協議会で協議することが必要と思われる。
- ・自主的審議事項と位置付ける前段の検討資料として、ろばた館の経営状況に関する資料とその他市内の温浴施設に関する資料、大島区と浦川原区地域協議会における検討資料が必要となる。
- ・自主的審議事項としての検討期間は「前段の検討」を含め、約2年とし、検討手順は、ろばた館の存続について住民の関心を高め、実効性の高い取組を実施するために、「ろばた館の存続」に関するアンケートを実施する。アンケート内容及び実施方法等については今後検討していく中で決める。
- ・アンケートと並行して、区内関係団体等との意見交換や先進施設の視察研修、専門家との意見交換を実施し、それらを踏まえ、地域協議会内部における検討と意見整理を行う。
- ・地域協議会としての検討結果の反映方法としては、市長への意見書提出や関係団体等への提案、利活用に向けた自主的な取組等が考えられる。
- ・まずは、ろばた館について、今までの経緯と現在の状況、今後の経営方針等について委員全員で学ぶところからスタートし、その結果、自主的審議事項として位置づけられ、検討できれば望ましいと考える。

【二宮委員】

- ・地域協議会で少子化や婚活等について意見を出した委員や賛同した委員で8月8日に自主的に集まって意見交換を行った。
- ・その中で、テーマをいきなり「婚活」とするよりも、婚活だけではなく少子化対策、つまり、名立区に引き続き住み続けてもらうとともに他からも名立区に来てもらえるようになればという意見が出て、私の方で「ふるさと名立の再発見、名立に住みたいと思う気持ちを育てる」というテーマを設定した。
- ・少子化対策がテーマであるが、そのために既存の団体に理解と協力を求め、できればイベント的なものを開催するように働きかけていければと考える。

- ・大島区と板倉区で少子化対策に取り組んでいると聞いて、大島区の地域協議会の委員と話をした。大島区では若い人が地域の色々な役に就き、行事に出ることで地域のことを考えてもらうような取組を始めたばかりとのこと。このように同じ課題に取り組んでいる地域と情報交換していきたいと思う。
- ・人口減少に対する危機感は皆持っており、対策は中々見つからないと思うが、その中でも少しずつ動いていければよいと思い、この問題をテーマとして提案した。

【塚田会長】

- ・二つの提案に対して意見・質問を求める。

【安藤委員】

- ・ろばた館の存続の件について、経営状況に関する資料がないと議論が進まない。
- ・少子化や人口減少については、突き詰めると子供が生まれても将来は外へ出ていくなど問題がかなりあると考える。根本的なことは名立に住み続けていきたいと思うまちづくりが重要であると思う。
- ・少子化や人口減少がテーマだと話が大きいので、具体的に何かもう少し絞ったほうがよいと思う。

【塚田会長】

- ・先程の三浦委員の提案は、ろばた館の存続の件について自主的審議事項として妥当と決定するために基礎的な資料を求め、自主的審議事項として決定するまで準備するということがよいか。

【三浦委員】

- ・そのような趣旨ではあるが、我々は経営や財務のプロではないので、資料のデータは全体の状況がわかるレベルでよいと思う。あまり数字に固執して経営論的なものにならないように、全体の経緯を踏まえて、地域協議会としてこの問題について先を見据えて、自主的審議事項として継続して取り組むという流れになればそれでよい。

【塚田会長】

- ・事務局は、ろばた館の経営状況に関する資料の提出についてどのように考えているか質問する。

【牛木所長】

- ・市では公の施設の再配置計画を策定し、施設の再配置を進めているところである。

- ・名立区において、すでに皆さんに報告しているとおり、ろばた館は平成29年度は継続、名南グラウンド、田野上運動広場、ひなさきテニスコートについては平成28年度に廃止し、今年度は施設を除去するということで進めている。
- ・その中で、昨年、国から公共施設の計画的な管理を推進するために必要な基本方針を策定するように指示があり、上越市も公共施設等総合管理計画を策定したところである。
- ・この計画は、平成28年度から15年間の長期計画であり、今まで進めてきた公の施設の再配置計画の基本的な考え方をもう一度整理して公共施設の更新や、統廃合、長寿命化等を計画的に進めることにより、財政負担の軽減や平準化等を推進しつつ、地域の皆さんが最も利用できる施設の配置等を目指していくものである。
- ・名立区においても、ろばた館を含めた区内のあらゆる公共施設について、平成32年度を目標に個別の施設計画を策定するため、現在、総合事務所内でワーキングチームを立ち上げて、旧小学校区単位で地域を分けて、各々の施設の利用状況や施設に係る経費等を調査・検討している。個別施設計画について、今後、長期的に施設をどのように利用していくかなど、地域や地域協議会の皆さんの意見を十分に聞きながら検討していきたいと考えている。
- ・そのような中で、ろばた館の経営状況等の資料について、地域協議会または勉強会等の中でどのような資料が提示できるか検討したい。

【三浦委員】

- ・公共施設等総合管理計画や個別施設計画等という話は初めて聞いたが、対象施設の範囲やアプローチの方法、検討する場所は異なっているが、方向性としては同じと思う。
- ・私は先程も効率的に検討という話をしており、我々が今急いで資料の提供を受けて議論するよりも、先程の牛木所長の説明によるとワーキングチームを立ち上げ、個別施設計画について検討しており、資料を整理しているところとのことであるので、今しばらく総合事務所におけるワーキングチームでの検討や資料整理を待ってもよいのではないかと思う。
- ・今後、地域に入って皆さんの意見を聞いていくとのことであるが、計画策定に向けて、地域の皆さんの意見を反映し、地域協議会とやりとりできるような体制を整えてもらいたい。

- ・総合事務所で資料を整理している間に、勉強会的なものを進めていき、その後に提示された資料と突き合わせをして検討していけばよい。

【徳田委員】

- ・ろばた館は、経営努力にもかかわらず利用者が少なく赤字であるが、市民の福祉向上に資する施設であり地域としては存続して欲しいという思いを持っている。
- ・ろばた館の存続の件について、地域協議会で議論されることは非常に大きな意味がある。

【塚田会長】

- ・二宮委員の提案について、先程、安藤委員から名立区にとって非常に大事なことであるが、テーマが広いのでどのように絞り込むかという意見が出た。
- ・二宮委員や意見交換会に参加した委員に意見を求める。

【二宮委員】

- ・公式な地域協議会の場となると、中々言えないこともあるので、人数を絞って勉強会を開いて、情報交換や意見交換をしてはどうかと思う。

【塚田会長】

- ・自主的審議事項と勉強会の違いについて、事務局の説明を求める。

【三浦次長】

- ・自主的審議事項は、委員個人が把握している情報や地域住民からの情報、区内で活動する様々な団体との意見交換で得られた情報等により把握した名立の課題について地域協議会の自主的な判断によって課題解決に向けて継続的に審議するものである。個別の課題について分科会を設置して審議することも可能であり、公開会議として位置づけた場合は、費用弁償の支払対象になる。
- ・自主的審議の結果、市に対応すべきものとしてまとめた場合、その内容を市政に反映するように働きかけるために意見書として市に提出する流れになる。
- ・勉強会については、ある案件に対し、問題意識を持って地域協議会全体または委員同士で意見交換や調査・研究をすることだと考える。
- ・なお、勉強会は公開会議ではないので費用弁償の支払対象にならない。

【奥泉委員】

- ・二宮委員の提案は非常に分野が広いが、名立区でも少子高齢化が進んでいるので、勉強会からでもよいので取り組むべきことと思う。

【徳田委員】

- ・昨年、糸魚川市で研修した際に市役所の職員から婚活事業の取組について色々と話を聞いた、勉強会でも婚活事業の取組実績のある人を招いて話を聞いてみてはどうか。

【安藤委員】

- ・二宮委員の提案について、はたして婚活自体が地域の課題としてあるのか、また、地域協議会で審議すべきことなのかという疑念がある。
- ・ふるさと名立に住み続けたいと思う気持ちを育てることは非常に重要なことであるが、それに対して地域協議会は何ができるのかと考えてしまう。
- ・まちづくり協議会や地域の団体に働きかけをして一緒に勉強会を開催することも考えられるが、勉強会の内容が課題になるのではないかと思う。

【徳田委員】

- ・二宮委員の提案について、地域協議会が主体となり、検討しながら、活動の母体となる団体を育て、その団体から婚活事業を実施してもらうとのことなので、その道筋を立てていけば良いと考える。

【安藤委員】

- ・この案件は少人数で詰めて勉強会等により議論し、テーマや提案理由、目標などが明確になった段階で自主的審議事項とするかどうかが決めるべきなのではないか。

【塚田会長】

- ・二つの提案について、勉強会を立ち上げてある程度のところまで議論し、その後に自主的審議事項とするか決めることを提案する。

【三浦委員】

- ・ろばた館の件については市の今後の動きを見据えながら、目標に向けて地域協議会として対応できるように勉強会を進めていくということにより。
- ・一方、ふるさと名立の再発見については、まだ方向性が定まっていないと考える。地域協議会の自主的審議事項と位置づけることを念頭におき、テーマの入口を整理して、勉強会を開催したほうがよいのではないかと思う。

【木村委員】

- ・前回の意見交換会では、地域の課題は少子高齢化、人口減少であり、婚活はそれに対する手段の一つである。直接「婚活」をテーマにすると色々と難しい部分がある

ので、何か自然な形で男女が出会える機会を設け、人口減少対策になればという話になり、これからの勉強会でもそのような方向で進めていけばよいのではないかという話であった。

【塚田会長】

- ・二つの提案について、勉強会を立ち上げてある程度のところまで議論し、その後に自主的審議事項とするか決めることについて委員に確認し承諾を得る。
- ・勉強会の日程や委員全員参加とするかどうかについて、委員に意見を求める。

【二宮委員】

- ・地域協議会と別の日に勉強会を開催するのは委員の負担が大きいのので、地域協議会の後に勉強会を開催した方が良いのではないかと。
- ・今回の提案について、直接「婚活」をテーマにすると色々と難しい部分があり、はたしてそれが地域協議会で取り組むべきことなのかという意見もあるので、今回は直接「婚活」をテーマとしなかったが、今後、自主的審議事項とするために勉強会でテーマを絞っていければと思う。

【三浦委員】

- ・私が最初に「婚活」と聞いた印象では、地域協議会の中の議論とは異質と思った。
- ・ただ、先日の意見交換会に参加した委員のみなさんが「婚活」に取り組もうという強い思いを持っているのであれば、きちんと「婚活」をテーマとして出して、何がポイントなのか議論すべきではないかと。
- ・勉強会については、基本的には委員全員の参加とすべきであるが、時間等の制約もあるので多少ゆるやかな形の会合とすべきであると考えます。ただし、効率的に検討を行うために、勉強会をどこまで、どのように進めていくか、スケジュール等を整理しなければならないと考える。

【塚田会長】

- ・二宮委員に提案のテーマについて質問する。

【二宮委員】

- ・「婚活」はメインのテーマではなく、地域の人口減少問題への一つの対策である。

【塚田会長】

- ・テーマを名立区における人口減少対策とすることについて意見・質問を求める。

【三浦次長】

- ・先程、三浦委員からの指摘では、この件はまだ論点整理が不十分であるとのことであるので、委員全員の勉強会とする前に、8月8日の意見交換会で集まった委員でもう一度論点整理をしてはどうか。

【三浦委員】

- ・このテーマの中で「婚活」という方向性を出して検討するのであれば、企業誘致や農村振興等の様々な人口減少対策がある中で、なぜ「婚活」なのかそこに至るラインを明確にしてもらえればよいと思う。

【塚田会長】

- ・本件について、直ちに自主的審議事項のテーマとするのではなく後日改めて論点整理をすることについて委員に確認し、承諾を得る。

【三浦委員】

- ・ろばた館の件については、次回の勉強会までにこれまでの経過やあさひ荘やゆあみに係る資料について提示してほしい。また、今後の個別施設計画の検討についてスケジュールを示し、どのくらいの間勉強会をしていくのか考え方を示してほしい。

【牛木所長】

- ・個別施設計画については、名立区はモデル的な位置づけになっており、策定を急いでいるところである。これまでに、総合事務所でワーキングチームを立ち上げて2回検討し、エリア分けをして、下名立地区を最初にたたき台を作成している段階である。
- ・もちろん、計画の策定に際しては地域の皆さんや地域協議会の委員の皆さんの意見を聞く。具体的に9月の地域協議会で委員の皆さんの意見を聞きたいと考えている。

【塚田会長】

- ・勉強会について、三浦委員の提案どおり委員全員の参加とすることについて、委員に確認し、承諾を得る。
- ・2－(2)「平成29年度視察研修会の予定について」事務局に案の説明を求める。

【竹内班長】

- ・研修会は年内に実施できればと考えている。昨年度のように委員の皆さんに研修先の候補を挙げてもらい、次回以降に決めていきたい。

【塚田会長】

- ・ 11月から12月の間に研修会を行いたい。
- ・ 報告事項について事務局に説明を求める。

【三浦次長】

- ・ 林道土口東線の通行止め解除について、前回の地域協議会で道路の改良工事に伴い7月18日から9月18日の予定で終日全面通行止めになると案内したが、8月24日に予定よりも早く工事が完了したため通行止めを解除した。
- ・ 市営バスの乗降聞き取り調査については、第2回目を8月14日から8月20日に実施した。調査結果については8月までの利用実績と合わせてできるだけ早いうちに地域協議会に報告する。

【二宮委員】

- ・ 市営バスの乗降聞き取り調査について、小・中学生は夏休み期間中であるが利用者数として数えるのか。

【三浦次長】

- ・ 小・中学生については、有料で乗車した場合は利用者数として数える。

【二宮委員】

- ・ 総合事務所の北側外壁改修工事により西側の駐車場が大幅に使用できなくなっているが、いつまでこの状態が続くのか。

【三浦次長】

- ・ 現在、足場を組んでいる段階であり危険防止等のため西側の駐車場を一部使用禁止にしているが、来週には元の状態に戻る予定。

【塚田会長】

- ・ ほかに意見・質問を求めるもなし。
- ・ 4－(1)「平成29年度第6回地域協議会の開催予定について」事務局に案の説明を求める。

【竹内班長】

- ・ 日時：平成29年9月25日（月） 午後6時30分から

【塚田会長】

- ・ 事務局の案でよいか、委員に確認し、承諾を得る。

【奥泉副会長】

- ・ 会議の閉会を宣言。
- ・ 挨拶

9 問合せ先

名立区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL 025-537-2121（内線 223）

E-mail: nadachi-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。